

はなわ 議会だより

2018
No.144

発行/福島県塙町議会
平成30年10月19日



笑顔とともに前へ
塙幼稚園運動会

9月定例会

- 平成29年度決算審議…………… P 2～5
- 9月定例会…………… P 6～7
- 町政を問う(一般質問)…………… P 8～17



塙町議会ホームページ
QR



塙町議会フェイスブック
QR



塙町議会ツイッター
QR

平成29年度 一般会計歳出決算額 63億1,263万円

幸せ実感のまち実現に向けた取り組み



- 商：観光資源整備事業 950万円
- 土：町道上福沢1号線補修工事 2,915万円
- 土：向橋補修工事 2,389万円
- 土：子育て若者定住促進住宅団地土地購入 2,764万円
- 消：消防車庫新築工事 781万円
- 消：消防団員防火服等購入 311万円
- 教：スクールバス運行 1,278万円
- 教：学校給食費 9,384万円



● 総：市町村生活交通対策事業 3,586万円



● 民：敬老祝金 642万円



● 商：湯遊ランドはなわ環境改善 2,000万円



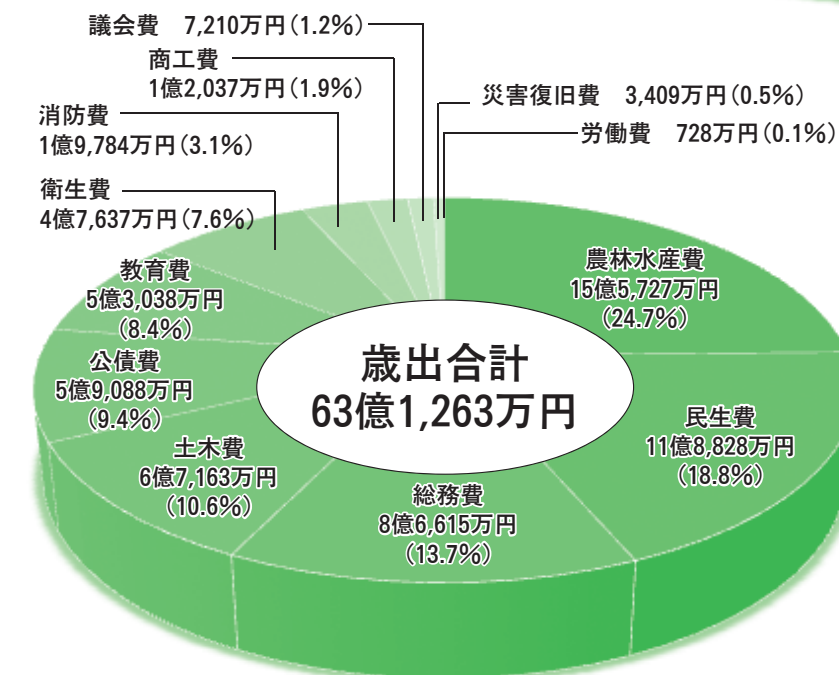
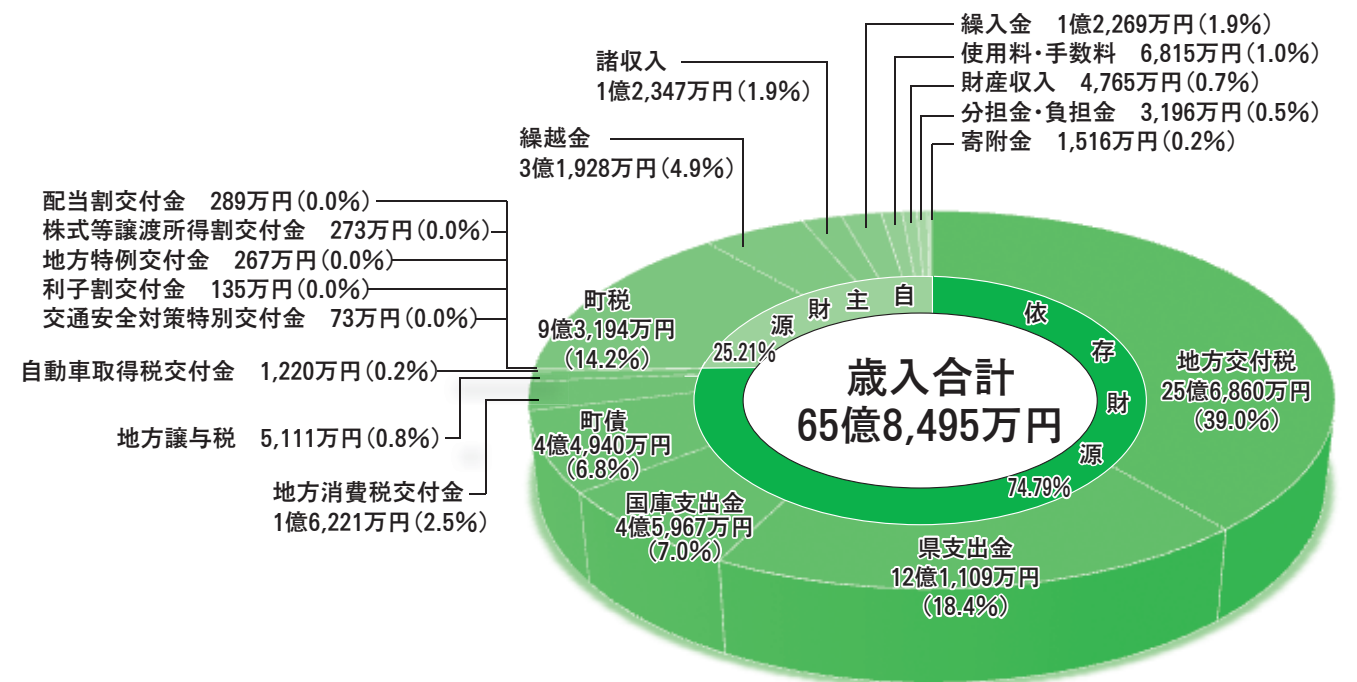
● 教：小中学校費 1億2,795万円

- 総：IP電話用サーバー保守 1,679万円
- 総：ふるさと納税謝礼用カタログ 518万円
- 民：はなわこども園(仮称)用地購入 9,278万円
- 衛：特定健診事業 1,486万円
- 衛：東白衛生組合分担金 2億3,373万円
- 農：ふくしま森林再生事業 3億5,733万円
- 農：林道大日向線開設工事 5,672万円

一般会計おもな使いみち

※ ● 総 = 総務費、● 民 = 民生費、● 衛 = 衛生費、● 農 = 農林水産費、● 商 = 商工費、● 土 = 土木費、● 消 = 消防費、● 教 = 教育費

平成28年7月に就任した宮田町長が、初めて年度当初から予算を組み上げ、子育て施策三本の柱と、はなわこども園(仮称)整備事業を中心に、様々な行政ニーズに応えるべく施策を実行した平成29年度の決算を、9月12日に予算決算常任委員会(小林達信委員長)で審議し、全会一致で一般会計及び各特別会計とも全て認定としました。



<特別会計決算>	歳入	歳出
国民健康保険	12億8,777万円	12億271万円
後期高齢者医療	1億273万円	1億227万円
介護保険	9億7,848万円	9億2,348万円
笹原財産区	3,307万円	3,306万円
農業集落排水事業	1億6,218万円	1億6,218万円
公共下水道事業	1億9,900万円	1億9,900万円
上水道事業(収益的収支)	2億5,927万円	2億5,413万円
上水道事業(資本的収支)	499万円	9,418万円

監査委員の意見

代表監査委員 石川 昭彦

歳入は町税収入、林業関係補助金や町債による増加と、基金繰入や地方交付税の減少によって、前年度比1.7%減の65億8495万円となり、歳出は林業関連補助金や、はなわこども園(仮称)関連の増加と、東白衛生組合負担分及び基金統合による減少で、前年度比1.1%減の63億1263万円となった。

全体的には、人件費は町税収入内でまか

なわれており、町債のうち実質的な町負担は25%程度。滞納管理は、特に過年度分において白河広域圏管内で最上位となっており、適正な管理をしている。

ただ自主財源比率は25%と、国及び県に依存し自立性を欠く状況にあり、経常収支比率も89%で財政構造の硬直性を示している。

今後地方交付税等が先細りしていく中で、各種事業のコスト削減及びメリハリをつけた資金配分によって町民からの要望に応え、絶え間ない行財政改革の推進と、財政マネジメントの強化をし、「山水花のまちづくり みんなが主役 しあわせ実感のまちはなわ」が実現されるよう願う。

平成29年度 決算質疑

9月12日(水)に開催された予算決算常任委員会での質疑をピックアップしました。

一般会計

ふるさと納税

ふるさと納税

347名の寄附があり158名がリピーター

Q 町として特産品を返礼品としているが、どのようなPRをしたのか。また寄附者に対する礼状送付などを行い、リピーター獲得につながったのか。
A PRは、すかいらーくグループ全店に卓上広告を実施。またフリーペーパーや雑誌、広生屋でも行った。寄附者に対しては礼状も同封している。

Q 昨年度の実績は寄附者数347名で、そのうち158名がリピーターである。
Q 制度見直しの新聞報道があったが、今後品目等の検討は行うのか。
A 公募により徐々に増えてきた。出品している者と協議し品目精査をしたい。



ふるさと納税カタログ

湯遊ランド環境改善補助金

施設の老朽化や様々なニーズに対応した

Q 2000万円を年度途中に計上したが、施策の成果及び実績は。
A 湯遊ランドは開業から20年を経過し老朽化が進んでいたため、利用客及び町民の健康増進施設として活用すべく、宴会場のたみみの交換(利用客からの

要望が多かった)、テーブル及び椅子の購入、LEDランプの交換による節電、食器洗浄機、冷蔵庫など計41種類の購入となった。



税の滞納と不納欠損

不納欠損額は421万円

Q 不納欠損の詳細は。
A 町民税94件82万3293円、固定資産税290件304万9438円、軽自動車税70件34万4800円。合計454件421万7531円。

Q 軽自動車税の滞納発生の事由はどのようなものがあるのか。

A 車検制度がある軽自動車は滞納の抑制にもつながるが、車検が無いものもある。また廃車手続きを行っていないものが滞納となるケースもある。遡っての廃車は、事実確認が証明できないため原則行っていない。

地域資源活用総合交流促進施設

ダリア園は収支で大きくマイナスとなった

Q ダリアは埴町の花として広く認知されてきたが、メインとなるダリア園の収支は。
A ダリア園は収支で大きくマイナスとなった。補助金額を一度減額見直したが、これは入園料の値上げによるもの。管理は3名で行っているが技術不足で、町として力を入れて指導をしている最中である。



きれいに整備されたダリア園

子育て・教育

教育費図書購入実績

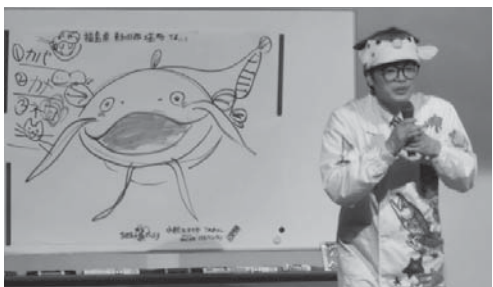
寄附金を有効活用した

Q 学校教育のための寄附金をどのように使ったのか。
A 寄付金額100万円で小中学生用の図書を購入し、各学校に専用ブース設置。子供達に読んだ感想文と写真をもって、寄附者への報告及びお礼とした。

文化講演会

人選は担当課と教育長の協議で決める

Q 文化講演会講演者の選考方法と基準は。
A 企画会社に日程があう講師をピックアップしてもらい、生涯学習課と教育長で協議し選定する。これまでの文化講演会のターゲットは大人であったが、今回は大人でかつ前回よりさかなクンということで子供も参加できたことが結果につながった。



大人気のさかなクン

特別会計

農業集落排水処理事業

加入推進を継続して行っている

Q 各地区の加入人口及び戸数を見ると、川上地区の減少が目立つがその要因は。
A 県道高萩埴線の道路改良により住居移転に伴う減や、農業集落排水への取り組みが、汲み取り方式から切替か、合併浄化槽から切替か定期的な要因もある。

台宿地区が、公共下水道へ接続すると聞いている。

Q 老朽化及び公共下水道への統合は現在検討しており、統合メリットありとしているが、老朽化は農業集落排水施設更新の要望が直近で採択となった。財政的に有利な方法で管路を先に更新したい。

上水道事業

水道料金の改定は避けられない

Q 収入増加が見込めず、費用増大に対する課題解決は何か方策があるのか。
A 上下水道委員会の中で協議がなされ、今後水道料金の改定は避けられないと認識している。
Q 一般会計からの約1億円の繰り入れで運営しており、高コスト低料金なのは。
A 今後の給水人口の低下と施設の老朽化を加味しながら、周辺自治体との水道料金比較ではなく、細かい分析を踏まえて検討していきたい。

福祉・医療

特定不妊治療助成費

県の申請で認められたものを町が助成

Q 特定不妊治療の助成金額は。
A 県の不妊治療申請として認められたものを町が助成している。

放射線対策事業

内部被ばく者ゼロ

Q 内部被ばく検査の結果で、甲状腺に異常があると認められる人はいたのか。
A 検査の結果、異常とされる人はいなかった。

笹原財産区

搬出路整備に力を入れ、新たな組織作りを検討

Q 当初予算で収入4000万円としたが、決算額3277万円との差は何か。
A 5年後に向けて搬出路整備に力を入れた結果である。
Q 財産区の管理会の内容は
A 条例に基づき委員

を選定しており、協議内容は予算及び決算や部分林組合を解散した土地の利活用、先進地視察を行った。今後のビジョンは50年も笹原地区の方が大切に管理されてきた山なので、新たな組織を作り検討していきたい。

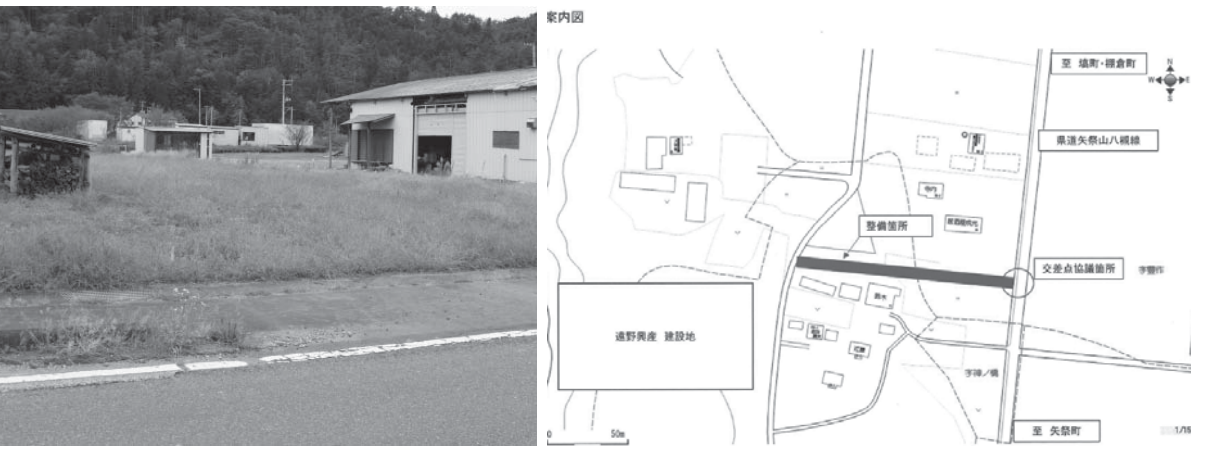


工事関連を中心に予算補正

町道新設とはなわこども園(仮称)建物工事実施へ

9月の例会は、9月6日(木)から13日(木)までの8日間の会期で開催しました。

9月定例会は、9月6日(木)から13日(木)までの8日間の会期で開催しました。



新設される町道豊作古宿線予定地

条例関係3件(固定資産税不均一課税、東日本大震災被災者に対する国保税減免、企業立地促進関連法に基づく準則制定)、過疎地域計画変更1件、補正予算3件、平成29年度決算認定8件、財政関連報告2件が上程され、いずれも原案どおり可決及び認定しました。また最終日に追加で人権擁護委員候補者の推薦2件が提出され、こちらも原案どおり可決しました。

一般会計補正予算4億9199万円追加

- 町道豊作古宿線道路新設工事 2500万円
- 遠野興産工場新設に伴い、県道への接続道路を新設する。 3億1600万円
- 補助金及び過疎債の充当決定による補正増。 785万円
- 公有財産(土地)購入費 785万円
- 役場職員用駐車場として新たに土地を購入し、来庁者用駐車スペースの確保をするための補正増。

Q 当初予算額0からの増目は、根拠があるのか。
A 増目計上の考え方は、必要な項目を計上するとなっており、今回の補正も必要が生じたことで予算計上した。
Q 役場駐車場は何台駐車できて何台不足しているのか。
A 109台駐車可能であり、そのうち95台が職員及び公用車が現在駐車している。新設駐車場は45台が駐車可能である。
Q 当初予算額0からの増目は、根拠があるのか。
A 増目計上の考え方は、必要な項目を計上するとなっており、今回の補正も必要が生じたことで予算計上した。
Q 駐車場用地として新たに土地を購入するのはなく、こども園開園後に現在の保育園を駐車場に変更する検討を行ったのか。
A 保育園敷地は借地契約であるため、当初から検討していなかった。
Q 新たに駐車場用地として購入する場所はどんなところなのか。
A 現状家屋や物置が建っている場所。駐車場として当初は砂利敷で、今後舗装を検討する。(全員賛成で可決)

健全化判断・資金不足比率の報告

平成29年度決算から算出された財政健全化判断比率の全指標は、いずれも早期健全化基準を下回り、各事業会計(農集、公共下水、上水道)の資金不足比率も経営健全化基準を下回ったため、埴町財政は健全と判断されず。
 なお、国が定める基準(左表中・参考)を上回ると、財政再生計画の策定や国等の関与による確実な財政再生に取り組むこととなります。

4つの健全化判断比率で見る埴町の数値	平成29年度	平成28年度	早期健全化基準(参考)	財政再生基準(参考)
実質公債費比率	6.8%	7.1%	25%	35%
一般会計が負担する公債費(借入金の返済額)及びこれに準じる額の大きさを指標化したもの				
将来負担比率	8.1%	10.1%	350%	—
一般会計が将来負担すべき実質的な負債を指標化したもの				
実質赤字比率	黒字のため基準値未満	黒字のため基準値未満	15%	20%
一般会計の赤字の程度を指標化したもの				
連結実質赤字比率	黒字のため基準値未満	黒字のため基準値未満	20%	30%
すべての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化したもの				

各事業別の資金不足比率	平成29年度	平成28年度	経営健全化基準(参考)
農業集落排水	資金不足なし	資金不足なし	20%
公共下水道	資金不足なし	資金不足なし	20%
上水道	資金不足なし	資金不足なし	20%

請願審査結果	七宮広樹	下重義人	吉田広明	青砥與藏	高緑光	吉田克則	鈴木茂	鈴木安次	小峰由久	割貝寿一	小林達信	藤田一男	鈴木孝則	大縄武夫		
請願第1号 国に対し「学校給食費の無料化を求める意見書」提出についての請願	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	不採択 (賛成1:反対12)
請願第2号 県に対し「学校給食費の無料化を求める意見書」提出についての請願	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	不採択 (賛成1:反対12)
請願第3号 学校給食費の無料化を求める請願	●	●	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	不採択 (賛成2:反対11)

○：賛成、●：反対 ※なお議長(大縄武夫)は採決に加わらない

議案の審議結果

議案番号	議案内容	審議結果
議案第47号	埴町地方活力向上地域の固定資産税不均一課税に関する条例改正	都市部からの営業所移転にかかる固定資産税不均一課税(上位法改正)
議案第48号	東日本大震災の被災者に対する国保税等の減免に関する条例改正	震災による避難区域等から転入した者の国保税減免(上位法改正)
議案第49号	埴町企業立地促進地域の産業集積形成及び活性化に関する条例改正	企業の成長性の高い分野へ取り組みを促進(上位法改正)
議案第50号	埴町過疎地域自立促進計画変更	町道新設工事を過疎債対象事業とするための計画変更
議案第51号	平成30年度埴町一般会計補正予算(第2号)	町道新設工事費など(4億9,199万円)
議案第52号	平成30年度埴町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	保険給付費支払基金積立金など(8,556万円)
議案第53号	平成30年度埴町介護保険特別会計補正予算(第1号)	保険給付費準備基金積立金など(5,885万円)
認定第1号	平成29年度埴町一般会計決算	9月12日(水)予算決算常任委員会審議により、全会一致で認定すべきとした ※審議内容は4~5ページに掲載
認定第2号	平成29年度埴町国民健康保険特別会計決算	
認定第3号	平成29年度埴町笹原財産区特別会計決算	
認定第4号	平成29年度埴町農業集落排水処理事業特別会計決算	
認定第5号	平成29年度埴町公共下水道事業特別会計決算	
認定第6号	平成29年度埴町介護保険特別会計決算	
認定第7号	平成29年度埴町後期高齢者医療特別会計決算	
認定第8号	平成29年度埴町上水道事業会計決算	
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について	任期満了に伴う委員の推薦(再任)
諮問第3号	人権擁護委員候補者の推薦について	任期満了に伴う委員の推薦(新任)

人事

人権擁護委員に2名を全会一致で同意



鈴木 俊二氏(再任)



近藤 洋一氏(新任)

任期は平成31年1月1日から平成33年12月31日まで

一般質問 町政を問う



議員名	質問事項	ページ
すずき やすつく 鈴木 安次	1 こども園建設 2 児童虐待関連 3 子ども子育て会議	P 9
すずき しげる 鈴木 茂	1 町外からの若者移住 2 商店街活性化	P 10
よしだ ひろあき 吉田 広明	1 議会発言内容 2 職員人事 3 給食費の負担 4 子育て関連	P 11
ななみや ひろき 七宮 広樹	1 産業祭の方向性 2 こども園建設 3 定住促進団地 4 その他の質問	P 12
しもじゅう よしと 下重 義人	1 町の災害対策 2 総合健診関連 3 耕作放棄地解消	P 13
よしだ かつのり 吉田 克則	1 天領の郷人事への関与 2 消防団員処遇改善 3 観光振興発展 4 障害者の雇用	P 14
こうえん ひかる 高縁 光	1 給食費無料化 2 公共交通事業 3 学校内トイレ洋式化	P 15
こみね よしひさ 小峰 由久	1 今後の重点施策 2 独自の公共交通 3 埴工高存続 4 旧常豊小活用	P 16
あおと ようぞう 青砥 與藏	1 教師の多忙化 2 ICT 活用 3 法定外公共物払い下げ	P 17

一般質問とは
 議会は、住民の皆さんに代わって町の行財政の運営を監視する役割があります。一般質問は、その議会を構成する議員に与えられた権利です。町の事務の執行状況や町の将来への考え方について、報告や説明を町長に求めます。町議会の執行状況をより詳しく掲載している一般質問は、一般質問議員自らが作成し掲載しています。

町の考えを問う こども園(仮称)建設の補助金獲得は 林野庁に行ったが会えなかった



すずき やすつく
鈴木 安次 議員

質問 林野庁以外に行ったところはありますか。
答弁 国交省や関係者に会いに行ったが会えない。脈あるところは歩きたい。
質問 この1年間で歩いたところはありますか。
答弁 議員は私の行動記録を持っているので、自分で調べてほしい。
質問 この1年間で補助金獲得に行ったところはありますか。
答弁 代議士の所は歩いたが、こども園(仮称)の陳情ではない。
質問 基本設計完成後の陳情は。

補助金が1割にも満たないこども園建設が埴町にとって良いことなのか甚だ疑問である

答弁 図面持参で林野庁に行ったが、名刺だけ置いてきた。
質問 こども園(仮称)開園に向けた内部会議は。
答弁 これからである。
質問 こども園(仮称)建設は一括発注か分離発注か。
答弁 視察中であり、今後決める。

児童虐待の相談件数は 今の所ない



埴幼稚園運動会

質問 子育て世代包括支援センターは。
答弁 平成30年度中に設置する。
質問 医師や弁護士等の外部人材の活用は。
答弁 必要に応じて対応する。
質問 児童相談所全国共通ダイヤル(189)の周知徹底は。
答弁 IP等で周知する。
質問 乳幼児健診未受診者はいるのか。
答弁 未受診者はいない。

埴町子ども子育て会議はなぜ開催されない 町長就任前の条例である

質問 子ども子育て会議がなぜ開催されないのか。
答弁 必要がある時のみ開催される。
質問 条例どおり委員の任命をすべきでは。
答弁 早急に対応する。
質問 子ども子育て会議条例を組み込んだこども園(仮称)にすべきでは。
答弁 条例を組み込んだ運営を考える。
質問 こども園(仮称)に、なぜすぎのこ園の子どもを入れないのか。
答弁 民間の施設と考えていた。もっと早く議員から提案があれば違っていた。
質問 町村会で町長はすぎのこ園の話をしたのか。
答弁 話題にしたことはない。

一般質問



鈴木 茂 議員

坂道を転げ落ちるかのごとき町の少子化にあって行政の無策は許されない!

町の考えを問う

町外からの若者呼び込みが必要では! はなわ独特の考え方でやりたい

質問 子どもの出生数が激減している。若者の流出を防ぐばかりでなく町外からの若者定住が必要ではないか。
答弁 大変重要な課題である。何か特色のある住みやすい町づくりが必要。
質問 最近町外からの移住はあったか。県の住宅支援事業は利用されているか。
答弁 移住者は一組であり、住宅支援事業は一件の申請がある。
質問 若者定住は地域おこし協力が早道であるが現在募集はどうなっているか。

答弁 ダリア関係で一名募集しているが今のところいない。
質問 農業のみならず林業、商業などで募集してはどうか。
答弁 ありがたいアドバイスだと思う。ぜひ検討したい。
質問 台宿北原若者定住住宅の現状と、末広町分譲地には町外からの特典を設けるのか。

答弁 台宿は町内の方が二世帯住んでいる。末広町の方には優遇措置を検討している。
質問 若者に魅力のある「はなわ」にすぎだがどのように取り組むのか。
答弁 はなわ独特の考え方でやりたい。



農村の魅力若者に

商店街に買物者の休憩所設置で活性化を!

財源を確保したうえで検討したい

質問 シャッターが目につく現在の商店街をどのように感じているか。
答弁 中型店の進出により、厳しい状況にある。発想の転換が必要だ。
質問 商店街の人たちと話し合いをしているのか。
答弁 その時々において話し合っている。今後も続けていきたい。
質問 空き店舗を使って買物客に休憩所を作ってはどうか。
答弁 興味深い話である。財源を確保検討したい。



活気ある商店街へ

町の考えを問う

答弁できないと発言したのか

議会の会議録、映像のとおりである

質問 6月定例会で、「町執行機関と議会との関係をどの様に考えているのか」との質問で、「通告に無いので、答弁できない」との議事録に「議長が「通告外です」との発言になった」との認識であるか。
答弁 議長が「通告外です」との発言になったとの認識である。

職員の人事について

福島県公平委員会から指導や指摘はない

質問 平成28年6月から現在まで、「勤務条件に関する措置要求制度」及び「不利益処分」に対する不服申立て制度に関する指導や指摘はあったのか。
答弁 福島県公平委員会に申し立てるような案件は発生していない。



吉田 広明 議員

遜色のない行政サービスの平準化を目指して行くべき

一般質問

こども園建設時に保育園児も3割軽減

質問 少子化を食い止める一つの手段として、給食費の無償化は必要と考える。子育て世代に必要な支援となり、出生数の増加に繋がる政策として、実現を目指すべきではないか。
答弁 食育の観点からも大事である。町の子育て支援政策であり、財源等の関係もあるが、保護者の負担を軽減したい。



議会だより

子ども・子育て支援課の新設について

組織機構の検討を進める

質問 妊娠から出産、幼児、小中学生、又は18歳までの育児と教育を一貫した切れ目のない受け皿体制整備を多くの市町村が取り組んでいるおり、埴町も途切れない子供の一貫した支援、新しい仕組みが必要ではないか。
答弁 はなわこども園(仮称)設置を機に、子育てを支援する拠点として検討をする。小中学校で不登校になって、卒業後、進学や就職をしないで引きこもる支援では不十分で、自立支援の体制を検討する。

すぎのこ園の教室が足りない

話し合いをさせて頂きたい

質問 埴町が要請してできた民間のすぎのこ園の話では、はなわこども園(仮称)に入ることは考えておらず、現在の埴幼稚園の1教室では狭いので、2教室あれば対応が出来るかと話されているが、何らかの対応をすべきである。
答弁 今ある施設を利用して安堵して頂きたい。是非協議を重ねて行きたい。



しもじゅう よしと 議員
下重 義人

町の考えを問う

災害時の対策を講じているのか 三つに分けて対策を計画

質問 町は災害に見舞われた際の対策を講じているのか。

答弁 一般災害対策と地震災害対策、事故対策と大きく三つに分けて計画を策定している。



那倉地内の急傾斜地

質問 通学路に面している倒壊の恐れのある塀の調査を行っているのか。

答弁 通学路にあるブロック塀は調査している。それ以外のブロック塀は、県と町が協力して調査を行う予定である。

質問 災害時に活用できる防災バック（非常用持出袋）を各家庭に配布できないか。

答弁 予算上の観点から今後検討したい。



非常用持出袋

質問 新たに災害マップを作り直す考えは。

答弁 土砂災害危険箇所、急傾斜地危険箇所、平成32年度に予定している。

質問 耕作放棄地はどのくらいあるのか。

答弁 毎年増加傾向にある。今後も耕作放棄地への歯止め対策が喫緊の課題である。

質問 耕作放棄地はどのくらいあるのか。

答弁 「人・農地プラン」などの組織を立ち上げ、組織で購入する。農地保全のためにも今後検討課題と考えている。

耕作放棄地をどうするのか 歯止めが喫緊の課題

質問 昨年度の総合健康診受診率は。

答弁 特定健康診査は50・7%、胸部レントゲン健診は46・3%、胃がん健診は22・1%と毎年ほぼ同じ率で推移している。

質問 健康を受け健康

答弁 生活習慣病の予防と早期発見、早期治療を行い重症化を予防するため、更なる受診率の向上に努める。

総合健診の受診率は 毎年同じように推移

町の考えを問う

今後の産業祭の方向性は 前向きに検討する時期に入った



ななみや ひろき 議員
七宮 広樹

質問 第30回に向けて伝統を守りながら改革を進め、新たな方向性を打ち出すべきでは。

答弁 新企画を盛り込んで盛大に実施したい。若い方々の意見を取り入れる部会を設置する方向で実行委員会の中で提案していく。前向きに新たな方向性を検討する時期に入ったと考える。



新たな方向へ動く産業祭

失敗の数だけ 成長がある。
困難の数だけ 感動がある。

平成最後の大プロジェクトNO.1 はなわこども園（仮称）建設工事の入札は 10月に入札を執行したい

質問 建設工事の入札を待つばかりの状況だが、軽微な見直しや変更は。

答弁 建築確認申請の許可が下り次第10月中旬には入札を執行した

い。屋根の材質をステンレス鋼板から、ガルバリウム鋼板に変更した。

質問 入札時の条件に地元事業者を申請として使うことを確認

平成最後の大プロジェクトNO.2 子育て若者定住促進住宅団地の完成と販売は 30年度に完成し、31年度に販売する

質問 完成時期と販売方法等はどうなるのか。

答弁 完成は平成31年3月25日を期限とし、販売方法等の詳細は検討を進めている。

質問 団地の名称は。

答弁 公募して決定したい。

質問 土地と建築に対して優遇制度を検討中か、新設区を設けるのか。

答弁 塙六区に入る事がベストと考える。

質問 若者を呼び込む特約や減免などを考えているのか。

答弁 欠く事のできない一定の条件として認識している。

その他の一般質問

質問 2020年から始まる小学校のプログラミング授業について、どのような準備を進めて行くのか。

答弁 研修や教材研究等の準備を進めている。



よしだ かつのり 議員
吉田 克則 議員

行政のコンプライアンス遵守
「障害者雇用促進法」?

一般質問

消防団員に対する処遇改善は

総合的に検討を進めたい

質問 町の消防防災危機管理と消防団員に対する処遇改善が必要ではないか。

答弁 不測の事態発生に備え、組織及び関係機関との連絡調整や役割分担等を決めておく必要がある。想定される自然災害は、町の防災計画等で組織や対応について計画が策定されている。いかなる危機に対しても町民の安全を確保していくことが大切。消防団員の処遇は改善して行かなければと強く思っている。消防団、町民から



町の安全を守る消防団

観光協会の事務所は

機能は「道の駅はなわ」内に

質問 町観光事業振興発展のあり方、一般社団法人埴町観光協会事務所を「道の駅はなわ」から「コミュニティプラザ」に使用許可をしたのか。

答弁 コミュニティプラザは町観光協会の管理室として、観光案内所としての機能は「道の駅はなわ」内にある。観光案内や道路案内をしている。

質問 町長の観光事業グランデザインは。

答弁 町の豊かな自然と施設等を活用して、まだ気付いていない観光資源も含めて埴町全域を観光資源として活用することを目指す。

障害者雇用の現状は

雇用に向けて鋭意努力

質問 障害者雇用促進法に基づく職員雇用目標等現状はどうなっているのか。

答弁 町では障害者1名の雇用義務付けになっているが現在は雇用していない。今後、募集を含めて検討し、障害者の雇用に向けて努力していく。

町の考えを問う

「天領の郷はなわ」人事において町長の関与は町の立場として答えできない

質問 町指定管理者団体一般財団法人「天領の郷はなわ」人事において、町長が関与し行なったと聞いたが事実関係は。

答弁 一般社団法人の評議委員会と理事会において決定されるものであり、町の立場として答えることは出来ない。

町の考えを問う

学校給食費無料化を実施すべき

こども園開園までに制度拡充を目指す

質問 学校給食費は現状3割助成にとどまっております。以前から見れば一歩前進だが、完全無料化を目指し半額助成を来年度から実施すべきではないか。町が半額助成とした場合、いくら予算が必要か。

答弁 29年度実績で概算計算をすると、約1000万円町の負担が増えることになる。

質問 県内でも全額や半額補助を行っている自治体が20市町村ある。町長選挙で給食費無料化を掲げ多くの支持をいただいた。残り2年の在任期間で実施すべきではないか。

答弁 町の未来を担う子供達の体をつくる給食は、食育の観点としても大事なものである。保護者負担も平成

29年度から7割負担としたところで、財源の関係もあるが中心施策の一つでもあり、平成32年4月のはなわこども園(仮称)開園までに、三歳児までの制度拡充を目指したい。

地域公共交通事業の展望は

実証実験の結果から独自の公共交通確立を目指す



試験運用の利用券

質問 タクシー利用料金助成制度の実施概要は。

答弁 公共交通の今後のあり方について検討するため、今年度高城地区で9月1日から11月30日まで実施している。高齢者の方を中心とする移動制約者のために、800円を超えた運賃を助成するもの。地区の選定理由は、過去に常豊及び笹原地区での実証を行ったため今回は高城地区となった。8月末現在71名申し込みがある。

質問 今後の事業展望は。

答弁 利用者にアンケート調査を実施し、その内容を活性化協議会で検討し、より利用しやすい制度設計や方向性を示したい。町としても財源を確保して独自の公共交通を確立したい。

質問 助成区域の拡大など、各町村間をまたいだ運用も考えるべきではないか。

答弁 まずは今回の実証実験を経ての内容になる。

小中学校のトイレ洋式化は全町的に進んでいる

質問 小中学校におけるトイレの洋式化を進めるべきではないか。トイレの施設数及び洋式化の実情はどうなっているのか。

答弁 埴小学校においては、和式トイレ12基、洋式トイレ21基、体育館は和式2基、笹原小学校和式トイレ6基、洋式トイレ13基、体育館洋式2基、屋外トイレ2基、埴中学校は全て洋式(体育館及び武道場含め)。



こうえん ひかる 議員
高縁 光 議員

今後免許返納者の足となる公共交通が必要になる

一般質問



あおと 青砥 議員
ようぞう 與蔵 議員

町の考えを問う

教師の子どもに向き合う時間を増やす取り組みは 多忙解消に昨年より取り組んでいる

質問 教員が「生徒に向き合う時間が少ない」、「教育委員会に提出する資料が多すぎる」と訴えているが、教師の環境は子供達の環境でもあり、その対応策は何か実施しているのか。

回答 昨年度より教育現場の実態調査を行い、教職員の多忙化を感じおり、現在ALT、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、特別支援員を配置している。今後も多忙解消に取り組む。

え 得手に帆を揚げる
やす 言うや易く、行は難し



こみね よしひさ 議員
小峰 由久 議員

町の考えを問う

今後の重点 施策は

近いうちに 具体化したい

質問 町長の任期が残り2年を切ったが、考えている具体的な施策は。

回答 埴町の存続を第一に、地場産業の振興や都市交流などに力を入れたい。健全財政を維持しつつ事業を計画し、近いうちに具体化したい。

町独自の公共交通への 取り組みは

何とかしたいという思いはある

質問 公共交通には年間約7000万円の公費が投入されているが、町独自の公共交通を提起してはどうか。

回答 福島交通への3500万円のうち、3000万円は交付金であるため町の財源からは500万円の支出であるが、現状なかなか前に進まない。

質問 中、小型バス化やタクシー相乗り、電動カートリース制度など具体的な方向に進めないのか。

回答 町の予算で考えると難しいが、何とかしたいという思いはある。

質問 高齢者の運転免許返納奨励に対する補助策は。

回答 町としては特にないが、今後検討したい。

ネットを活用した埴のPRを!!
人材と知恵と情報を求める時代
に対応すべき

埴工高の存続に 向けた方策は

知恵を出し合い相談して進めたい

質問 埴工高の存続に向けた方策は。

回答 町の広報等で周知に努めている。また大学等で行われている「学び直し」を取り入れられないか考えている。

質問 学生寮等を作り、広く生徒を募集する考えは。

回答 様々な方と知恵を出し合い進んでいきたい。

質問 文部科学省計画の「高校で地域人材育成」という事業への取

り組みは。

回答 地域産業と協力して、地域人材育成を進めるといった事業計画であり、学校側と相談して進めたい。

質問 国も人的及び財政的支援をする事業であり、行政が先頭に立ち事業獲得に動くべきでは。

回答 願ってもない事業であり、そのような方向で進みたい。



地域と共に埴工高

ICTの活用は 積極的に進めていく



埴町で開催された講演会

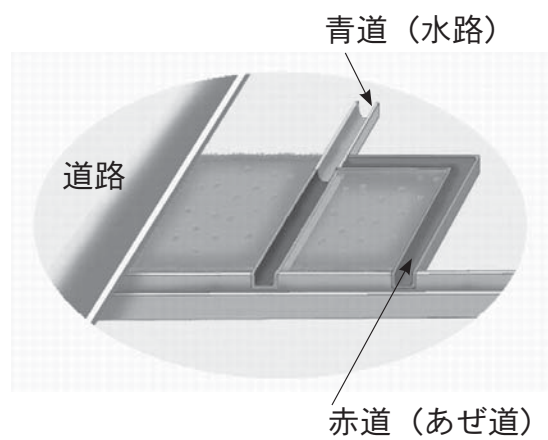
質問 先日のGoogle株観光立国推進部長の講演を聞き、埴町のICT事業をどう進めるのか。

回答 観光、特産品、定住情報はインターネットとの相性がよく、生活者の情報源もデジタル媒体が中心となっており、デジタルマーケティングを進める

質問 ICTに特化した職員採用は行わないのか。

回答 小さな行政にシフトしていく時代を見据え、ITに精通する職員採用の必要性は感じるが、採用試験の方法を確立することが前提になる。

ICT：情報通信技術の略称



法定外公共物の払い下げは 町民の要望に応じ、積極的に払い下げたい

質問 国有地として管理された法定外公共物（赤道Ⅱあぜ道、青道Ⅱ水路）は、地方分権一括法により地元自治体に無償譲渡されたが、必要に応じて払い下げをすべきでは。

回答 払い下げは可能であり、積極的に対応したい。

旧常豊小跡地の活用は 利用者を募集している

質問 旧常豊小跡地活用はどのように進んでいるのか。

回答 国及び県の活用策に登録し、利用者を募集している。



工事着工予定区間

8月 臨時会の あらかし

平成30年8月10日に第5回臨時会（会期1日間）が午前10時より開会されました。議案1件の審議と、1件の報告を受けました。

工事請負契約

町道桜木町末広線のうち、塙厚生病院から国道118号線との交差点まで（延長290m）の改良工事。内容は歩道と車道の段差解消及び舗装で完成工期は平成31年3月25日とするもの。

契約金額

7452万円

契約方法

指名競争入札

（4社入札参加）

契約の相手方

深谷建設株式会社

代表取締役 深谷 佳孝

落札率及び入札参加業者は。

A 落札率は96・2%。入札参加業者は、深谷建設（株）、森本建設（株）、矢祭建設（株）、藤田建設工業（株）の4社。

〈全員賛成で可決〉

この他に、平成29年度塙町繰越明許費繰越計算書の内容変更（繰越額の一部に支出済の金額を含めていた事による変更）の報告を受けました。

議会活動出欠状況

平成30年7月1日～9月30日

年月日	会議名称	七宮広樹	下重義人	吉田広明	青砥興藏	高縁光	吉田克則	鈴木茂	鈴木安次	小峰由久	割貝寿一	小林達信	藤田一男	鈴木孝則	大縄武夫
30.7.6	広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
30.7.11	広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
30.8.2	茨城県牛久市議会視察（議会広報関係）	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	○	○	○
30.8.10	議会運営委員会	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	私用	—	○	○
30.8.10	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.8.10	8月臨時議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.8.10	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.8.29	議会運営委員会	—	—	—	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○
30.9.6	議会運営委員会	—	—	—	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○
30.9.6	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.9.6-13	9月定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.9.7	総務常任委員会	—	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○	—	—	○
30.9.7	経常任委員会	○	○	○	—	—	—	○	—	—	○	—	○	○	—
30.9.7	広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
30.9.11	議員定数等検討協議会	○	—	—	—	—	○	○	○	—	○	—	—	○	○
30.9.12	予算決算常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.9.13	議会運営委員会	—	—	—	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○
30.9.13	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.9.28	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○出席 — 該当外

議員は会議に出席する義務があり、正当な理由がなく欠席すると罰せられることがあります。議会では欠席の正当な理由として、配偶者・親族の葬儀（忌引）、病気・けが（傷病）、突発的事故（事故）、その他議長が認める場合です。表ではそれぞれ、忌引、傷病、事故、その他と表記し、それ以外の正当な理由外の欠席の場合は私用と表記しました。

ひとことインタビュー

9月定例会の傍聴者数はのべ15人でした。傍聴された方の中からインタビューを実施し、感想や意見をいただきました。



議員は町民の代弁者としての議論を



ふじた まこと 藤田 充さん（本町）

傍聴したきっかけは

平成28年に誕生した新町長が、どのようにして4つの老人ホーム建設などの公約を実現していくのかに興味があり、継続して傍聴しています。

傍聴された感想はどうでしたか

私が傍聴するのは、主に一般質問です。一般質問は議案審議ではなく、議員主導の政策論議の場だからです。また、質問内容を事前に知らせる通告制度が有りますので、町長は答弁内容を十分に検討することができるは

ですが、その中でも「公約の（老人ホーム）4カ所というのは便宜上言った。」（就任後に行った課長の人事異動について）1年間の試験雇用」との町長の答弁には驚きました。

他の傍聴者からも耳にしますが、答弁がはっきりしない。質問と答弁が噛み合わない場面も多々見られます。議会ホームページの議会中継を見ると、町民の皆さんも同じような感想をもたれるのではないのでしょうか。

町に対する意見、要望はありますか

一般質問は、町長の町行政に対する覚悟を示す絶好の機会であると思います。町長の指示や指導のもとに、役場組織が一体となつて、通告内容に対する的確で責任ある答弁を整えて欲しいと思います。

議会に対する意見、要望はありますか

議員は「一般質問」ならではの意義を踏まえ、建設的立場で町政に対する質問を練り上げ、町民の代弁者としての議論を一層深めて頂きたい。

議会だより モニターさんの声

前回7月20日発行の議会だより143号に対する議会だよりモニターの声を掲載します。

1. 表紙及び裏表紙について

- ・QRコードはより多くの方が閲覧するきっかけになる。
- ・色使いやレイアウトが改善されて大変見やすかった。
- ・表紙のサブタイトルのサイズが大きすぎる。

2. 6月定例会関連記事(P2~3)について

- ・あらましが読みやすい。
- ・国保負担の説明で、モデルケースが示されてわかりやすい。
- ・見出しが見やすい。
あらましの(一行あたりの)文字数が多くてもいいのでは。



4. 後半ページについて(5月臨時会、委員会レポート、議会の動き)

- ＜委員会レポート＞
 - ・読みやすくなって大変よい。
 - ・委員から見た課題や問題が出ていて大変よい。
- ＜定数アンケート＞
 - ・回収率20%で、議会に関心をもってもらうにはどうしたらよいのか。
 - ・掲載内容を「定数」「報酬」に絞ったのがよかった。
- ＜追跡レポート＞
 - ・「その後」があまりにも簡素化されすぎている。

5. その他ご意見

- ・一般質問のやりとりが、紙面の都合なのかあまりにも淡泊すぎる。議会全体が活性化しなければ、議会広報を読む側も本気にならないのでは。
- ・定数アンケート回収率の低さに驚いた。議会に関心を持ってもらうツールとして、議会だよりもっと活用されることを望む。

3. 一般質問記事(P4~13)について

- ・「扉」ページにより質問事項がわかりやすくなっている。
- ・各議員の文量に差があり、空白が目立つなどレイアウトに工夫が必要。
- ・各議員の見出しの配置が「たて」「よこ」バラバラで読みにくい。

私もひとこと

委嘱されたモニターさん2人に議会だよりについてご意見をいただきました。

誌面から議員の姿を伝える



鈴木正志(山形)

議会だよりについては、今まで漠然と読んできた感がありますが、今回モニターを引き受けるにあたり、改めて過去に発行した議会だよりを読み返してみました。

議会活動について、一般質問を中心に紙面を割いて、丁寧に書かれていたことに感心しました。その内容は質問を行った議員が書いているとのこと得意気込みを大いに感じるところです。さらに過去に

行った一般質問の追跡レポートを実施し、内容等を再認識させる手法は正解だと思えます。

少子高齢化による人口減少が急激に進む中、あらゆるものが縮小・統合へとシフトされつつある現状で、「任んでよかった」町づくりのために、議会に求められる役割は大変重いものがあります。

町民の幸せのために日々奮闘される議員の姿を、分かりやすくお知らせできる議会だよりは、完成度の高い広報紙でありますが、更なる紙面充実のために微力ながら協力させていたただきたいと思えます。

「読む」から「見て楽しむ」へ



遠藤勢子(板庭)

議会だよりモニターを三期やらせていただき、議会への興味から傍聴する機会が増え、議員の考えも少しずつわかるようになってきました。議会だよりも回を重ねるたびに改善され、大変読みやすくなってきました。「読む」とい

うよりも見て楽しむ方向になると興味も湧き、目から入ってくるので理解しやすいと思います。

多くの方に議会を傍聴して頂くことにより、議会の内容もわかり、町としてのビジョンも分かってきて議会だよりをより楽しみに待っていてくれるような気がします。

若者や仕事をしている方が傍聴できるように、一般質問を土日や夜間行う方法もあるのではないのでしょうか。

議会の動き

埴工高校長先生による講演



教育に対する思いを熱弁

7月3日(火)午後3時から埴農村勤労福祉会館大研修室にて、埴工業高校佐藤浩正校長先生による講演会を、議会及び埴工高存続に関する調査特別委員会主催で開催しました。町職員や近隣町村職員、埴工高卒業生就職先企業などから34名が参加し、校長先生より高校の教育内容や生徒数の現状等の説明を受け、その後質疑応答を行い約1時間半の内容でした。生徒数の減少は気がかりですが、社会人としての基礎知識と専門技術の習得に向け、生徒、保護者、教職員が取り組んでいる実情を知ることができた有意義な講演となりました。

議会広報関連の視察受け入れ



牛久市議会との研修のようす

8月2日(木)に茨城県牛久市議会(広報常任委員会 山本伸子委員長ほか6名)が議会広報関連の視察研修に来町されました。主な研修内容は、編集に対する常任委員や事務局の関わり方や、掲載する写真の撮影者及び撮影方法、発行までのスケジュールや諸経費などについて、各委員から現状報告及び意見やアドバイスを受けました。議会活動を周知する大切な広報紙であり、読み手の視点を大切にしつつ、今回の研修で参考になった点を次回以降の編集につなげていきます。

皆さんの団体やサークルに広報常任委員が伺います。

団体の名称：片貝青年会
 活動場所：埴町大字片貝地内
 会長：八幡 健太郎 (TEL：42-2426)
 会員：11名

伝統を引継ぎ若者が地域活動



片貝青年会の歴史は古く、地区の先輩から年々引き継がれ現在に至っています。主な活動は、盆踊りや神事行事の農休日以太鼓をたいて地域内を巡回し区民に知らせています。盆踊りは、毎年8月14日に旧片貝小学校跡地広場で青年会が主催して行なわれています。かつては埴町の各集落に青年会が組織され

ており地区行事やスポーツ大会など盛んに行なわれていましたが、現在はほとんど見受けられなくなりました。片貝青年会は古き良き伝統を引き継ぎ、活動をしている素晴らしい団体であると感じました。今後の目標としては、片貝地区の若者が結束し住み良い地域にしたいと語っていました。

編集後記

議会、だよりをご覧になつている町民の皆様、いかがお過ごしでしょうか。議会、だよりを作成している広報常任委員会は、全国議会広報コンクールでの表彰により、5月には宮城県山元町議会と山形県尾花沢市議会、8月には茨城県牛久市議会が視察来町と例年以上の活動内容です。受賞により他市町村議会から注目される事は大変うれしい事で、意見交換した内容を編集活動へ活かし、町民目線で作成すること第一に、議会活動を一人でも多くの人に知ってもらえるようこれからも努力していきます。

高縁 光

あなたも議会を傍聴してみませんか

平成30年12月定例会は、12月13日(木)からの予定です。

●場所 役場2階 議場●
 (※氏名記入などの簡単な手続きで傍聴できます。)



- 広報常任委員会
- 委員長 吉田 克則
 - 副委員長 下重 義人
 - 委員 高縁 光
 - 委員 青砥 與藏
 - 委員 吉田 広明
 - 委員 七宮 広樹